

東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.25 2018.8)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第 25 号をお届けします。

第 25 号では、東北ハイテク研が主催して 2018 年 7 月 24 (火) に岩手県岩手町で開催しました「薬草勉強」についてお知らせします。

薬草勉強会の内容

東北ハイテク研究会では、薬草への関心の高まりを受けて、2016 年から勉強会・現地見学会を開いてきました。薬草の価格保証などが整備され、岩手県においても、薬草が有望な品目と考えられることから、関係者によびかけて、2018 年 7 月 24 日に岩手県における薬草栽培の最大の産地である岩手町の生産者の圃場で勉強会を開催しました (参加者：28 名)。

勉強内容は、以下のとおりです。

<講演および説明>

「薬草生産を取り巻く環境と研究の現状」

・・・東北ハイテク研究会 コーディネーター 星野 次汪

「岩手町での薬草栽培の現状とこれから」

・・・農事組合法人 岩手薬草生産組合 総務部長 伊藤 浩史

「薬草栽培における雑草対策のポイント」

・・・東北ハイテク研究会 コーディネーター 佐川 了

<圃場での説明概要>

トウキ・・・育苗は大変だが、単価が改善され、20 万円/年が見込まれる。抽苔した株は抜き取りが必要で、除草剤の利用による労働負担の軽減が必須である。マルチの利用については、現在検討中。原則として連作は避ける。

センキュウ・・・収益はトウキと比較してやや低いが、機械化栽培が可能であるため、主に北海道で栽培されている。岩手での栽培面積は減少傾向にある。

シソ・・・7/月上旬から 9/月上旬まで 7~8 回収穫する。多い人では 10 回程度の収穫が可能である。収穫後に急速に品質が劣化するため 2 時間以内に調製所まで搬入することが求められる。

各人の営農体系への組み込みなどについては、今後とも岩手薬草生産組合の協力を得ながらさらに勉強を重ねる必要があり、伊藤部長も協力を約束してくれた。



トウキを見ながら伊藤部長の説明を受ける



センキュウのメリットと課題



シソの刈取り作業とダニ対策

*なお、当日配布されました資料につきましては、PDF ファイルとして閲覧できるようにしましたので、参考にしてください。

(東北ハイテク研 HP > 会員専用ページ セミナー・ワークショップ等講演資料に掲載)